



子どもと関わる生きがい

あさみ はるのぶ
浅見晴宣さん



国語や算数をわかりやすく指導する浅見さん

自分が何かの役に立つことができれば…とボランティア活動を行う方は町内に多数います。今回は小・中学生を対象とした基礎学力の向上と学習習慣の定着を図ることを目的として行われている「放課後学習会」で、ボランティアとして学習サポートをしている浅見晴宣さんからお話を伺いました。

教師として当別に

教師をしていた父親の影響で、私も教師になりました。当別町では当別小学校・当別中学校で教師・校長として、退職後は当別幼稚園の園長として1,000人以上の子ども達と関わってきました。その教え子の多くが現在も当別町で暮らしており、町内で買い物をしている時に声をかけられることがありますね。覚えていてくれたことがとても嬉しいです。現職時代の印象的だった思い出の1つに、小学生の時に担任として受け持った子が親となり、幼稚園の入園式に子どもを連れて来ていて私に声をかけてくれたことがあります。とても感慨深いものがありましたね。

子どもの社会がある

いまの子どもは大変な時代を過ごしていると思います。私が幼少の頃は戦後間もない時期で、全ての家庭が毎日の生活に苦労していました。親は必至に働いていたため子どもの面倒をみるのができない、でも子どもは子ども同士で互いに助け合い、時にはけんかもしながら成長していました。そして将来、きちんと職に就いて独立しても食べていけるよという目標があり勉強していました。それに比べ、豊かな時代になった現代社会は物があふれ、子どもは何のために勉強をするのだろうか？と感じているのではないのでしょうか。しかも少子化の影響からか、1人の子どもに多くの大人が関わりを持ってしまい子どもの自ら成長しようとする気持ちを抑えているのではないかと思う場面もあります。子どもには子どもの社会があり、大人の知らない世界・価値観を持ち同級生や友達との関わりの中から多くを学びます。もちろんトラブルもあることでしょう。でもそこで大人がすぐに間に入って大人の視点で解決してしまうと、そこで

子どもの成長しようとする気持ちは途絶えてしまいます。そっと見守り、必要なときに手を差し伸べてあげることが大切なことだと思います。

お世話になった恩返しを

当別幼稚園の閉園後は、趣味の山菜採りや囲碁を楽しんでいました。ある日、町教育委員会から「放課後学習会を行うので協力してくれないか？」と話があり、これまで多くの方にお世話になった恩返しができると思い引き受けることにしました。一番の理由は子どもと一緒に過ごす時間が楽しかったのかもしれませんが。学習サポートは週に1度ではありますが、長年、教師などで培った経験を子ども達に、学習の方法を伝えていくことが私のできる唯一の恩返しであり、可能な限り続けていきたいと思っています。

何度も「お世話になった恩返しです」と謙虚に話されていた浅見さん。その人柄の良さから、指導を受ける子ども達からの信頼も厚いことが感じられました。(10月6日取材)